

令和8年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標Ⅰ 【 県総合計画等に沿った教育内容の充実 】

1 現状及び課題、並びに評価項目

現 状	課 題	評価項目（達成目標）
○農業振興に貢献する優れた農業者等を育成するため、県総合計画に沿って経営者マインドの醸成に向けた経営実践プロジェクト学習に取り組んでいる。農業部では、利益を確保するための価格設定や販売方法を検討するとともに、新たな販売先を模索している。また、園芸部では対象品目を選定し、学生に消費者ニーズに沿った品種選定、栽培管理、販売といった一連の流れを経験させている。これらの取り組みにより、経営感覚を養っており、昨年度は1年生の全員が当学習に取り組み、経営者マインドを醸成することができた。	○講義を通じて、価格設定や販売、コストへの意識などを学んだ上で、販売先と交渉するなどの実践を通じ、経営者マインドを身に付けさせる。	経営者マインドの向上 効果測定アンケートにおいて理解度（1～5の5段階評価）が4以上の学生の割合 100%
○県の重要施策であるスマート農業導入推進、GAP 認証の取得推進、有機農業の取組推進を本校学生においても習得させるため、以下のとおり実施している。一方で、これらの取り組みに対する学生の習得状況を十分に把握できていない状況があった。 ○学生にスマート農業等新技術の知識を習得させるため、農機メーカー等と協力して専攻実習の時間に機械の実演会等を実施するカリキュラムを取り入れている。 ○卒業後、GAP を取り入れた持続的かつ効率的な農場運営を当然のものとして実施できる人材の育成を目指し、当校において JGAP 認証を取得し、基準に沿った教育を行っている。 ○有機農業の基礎知識を学ぶ座学に加え、有機農業の実践者から学ぶ特別講義や現場の実態を学ぶ校外学習を実施している。	○スマート農業、GAP、有機農業の教育を充実させるとともに、学生の習得状況を把握し、理解を高めていく。 ○スマート農業等新技術に関する知識を習得するための教育をさらに充実させる。 ○当校における JGAP の認証をさらに広げ、実践を伴った教育により GAP の概念や意義を理解させる。 ○有機農業に関する教育を継続し、その意義や実態について理解させる。	科目「農業情報利用」、「農業工程管理学」、「有機農業概論」それぞれの授業アンケートにおいて理解度（1～5の5段階評価）が4以上の学生の割合 100%
○行政機関や研究機関、農業関連高校からの転入等により、栽培指導、ほ場管理、学生指導に関する経験の浅い職員が在籍している。 ○スマート農業など技術開発が急速に進む昨今、最新技術・知識の情報不足による教育の停滞が懸念される。	○行政機関や研究機関、高校から転入した職員等が、学生指導や栽培技術指導などに苦慮しないよう、教育方法や先進技術などを学ぶ機会を確保する。 ○スマート農業や経営感覚等を指導する上で必要となる最新の農業技術や経営知識等を習得する機会を確保する。	職員の資質向上機会の確保 職員研修参加回数 2回以上/人

2 評価項目別の評価及び次年度の課題

（1）経営者マインドの向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]	達成度の評価基準	
効果測定アンケートにおいて理解度（1～5の5段階評価）が4以上の学生の割合 100%				A	90%以上の達成
				B	75～89%の達成
				C	60～74%の達成
				D	45～59%の達成
				E	45%未満の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
ア【継続】経営感覚を醸成する学習機会の確保 ・経営実践プロジェクト学習で特別講義を行い、原価計算、価格設定を行い、売上を把握することによりコスト意識を醸成する。 特別講義 4回（農業部・園芸部合同） 【R7実績：8回（農業部・園芸部 計）】 ・特別講義で検討した商品設計を基に、学生自らが生産した農産物の販売に関して販売先との交渉を体験させ、企画力販売力の向上を図る。 予定品目 コメ、ナシ、ブドウ、ネギ、イチゴ、アスター等			・経営実践プロジェクト学習は県が進めている重要施策である「儲かる農業」の基盤となる重要な取組と認識している。引き続き次年度も継続を願う。

販売先 JA 直売所、ショッピングモール、高速 SA、飲食店、都内デパート 効果測定アンケートの実施 1 回 【R7実績：1 回】 ・農業者等が運営している農場において、派遣実習や視察研修を行い、経営状況や経営理念、経営手法を学ぶ。 先進農業派遣実習の実施 60 か所【R7実績：60 か所】 先進経営体視察研修の実施 6 か所【R7実績：9 か所】			
---	--	--	--

(2) 新技術や新たな取組に関する教育の充実

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]	達成度の評価基準	
科目「農業情報利用」、「農業工程管理学」、「有機農業概論」における授業アンケートにおいて理解度（1～5の5段階評価）が4以上の学生の割合 100%				A	90%以上の達成
				B	75～89%の達成
				C	60～74%の達成
				D	45～59%の達成
				E	45%未満の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
ア【拡充】スマート農業等新技術に関する教育体制の構築 ・最新かつより有用な技術について学習させるため、関係機関や民間との協力による研修会を実施する。 4 月～2 月、延べ 12 回以上 【R7 実績：13 回】 ・実習圃場に導入している ICT 機器を活用し、プロジェクト活動等による効果検証を通じて新技術への理解を深める。 ・科目「農業情報利用」において、スマート農業の概要について新規に扱う。 ・校内教育企画委員会の開催（教育体制構築のための検討）3 回 授業アンケートの実施 授業終了時 1 回 イ【拡充】GAP の実践を通じた概念と意義の理解 ・農業生産工程管理学の講義により GAP の概念や意義について学ぶ ・審査に向けた準備等を学生に体験させ、審査会を見学させる。 ・農学科・畜産学科においては、既に JGAP の認証取得している〔メロン、ネギ、ナシ、ブドウ、クリ〕の農場運営を手本に、未取得のコースにおいて新規認証取得にむけ品目の選定など準備をすすめるとともに、全体で GAP の概念を取り入れた実習を実施する。 ・園芸学科においては、新規に抑制メロンでの認証取得を目指すとともに、全体で GAP の概念を取り入れた実習を実施する。 認証 3 コース（継続 2 コース、新規 1 コース） 【R7 実績：2 コース（継続 2 コース、新規 0 コース）】 授業アンケートの実施 授業終了時 1 回			・スマート農業は県の重要施策の柱であり、学生にその旨理解して貰うよう指導を願う。スマート農業に取り組む必要性について出口（所得向上）を意識させるよう学生に指導いただきたい。

ウ【継続】有機農業に関する学習機会の確保 ・R6 年度に新設した有機農業概論をはじめ、土壌肥料学、農業機械学、植物病理昆虫学などの講義で有機農業に必要な栽培技術を学ぶ。 ・環境や持続性に配慮した農業について理解を深めるため、特別講義、校外学習を実施する。 特別講義 2 回 【R 7 実績：2 回】、 校外学習 2 回 【R 7 実績：4 回】 ・環境や持続性に配慮した農業技術についてプロジェクト活動等による試験を通じて実践する。 授業アンケートの実施 授業終了時 1 回			・有機農業は県の重要施策の柱であり、学生にその旨理解して貰うよう指導を願う。有機農業に取り組む必要性について出口（所得向上）を意識させるよう学生に指導いただきたい。
---	--	--	--

（３）職員の資質向上機会の確保

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント [全般]
職員の研修参加回数 2 回以上/ 人 【R 7 実績：5.7 回/人】			

達成度の評価基準	
A	90%以上の達成
B	75～89%の達成
C	60～74%の達成
D	45～59%の達成
E	45%未満の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
ア【継続】指導経験の浅い職員の指導能力向上研修への参加 ・学生指導経験の浅い職員向けの学生指導研修を行う（1 回）。 ・農作業安全・大型特殊免許取得研修への参加を誘導する。 ・関東ブロック農業教育施設協議会などでの研修会等への参加を誘導する。 イ【継続】先進農業技術習得研修への参加 ・県主催専門研修、各種研究会主催研修などの研修への参加を誘導する。			